



カンクン会議(COP16/CMP6)報告会

ギガトン・ギャップ を埋めるには？

2011年1月13日(木)
東京ウィメンズプラザ

WWFジャパン
気候変動プログラムリーダー
山岸 尚之



“ギガトン・ギャップ”の存在

	2020年 排出量	2°C目標と のギャップ
対策をとらなかった場合 (BAU: Business As Usual)	560億トン	120億トン
現状までに約束されている目標・行動が 最低限の水準で達成された場合	530億トン	90億トン
現状までに約束されている目標・行動が しっかりと達成された場合	490億トン	50億トン
2°C目標を達成するために必要な削減 が達成される場合	440億トン	

このギャップを埋めるためのルールとプロセスが必要



“ギャップ”を埋めるためには？

- 各国の削減数値
 - 数字そのもの＋その確実性／信頼性
- 各国の削減数値以外の部分
- 長期的な取組みを促す仕組みの整備

カンクン合意の中の関連部分—AWG LCA(1)

- 各国の自主的な削減目標・行動の扱い
 - INF文書の中に入れられ、「留意」された
 - 前提条件(メカや吸収源含む)を明確化するためのワークショップ
- MRVの仕組みを作るプロセスの確立
- 低炭素発展戦略もしくは計画の作成(先進国・途上国)
- 共有ビジョンでの「2°C」「1.5°C」への言及
- 将来の「レビュー」(第1回は2013～2015年)

カンクン合意の中の関連部分—AWG LCA(2)

- 国際航空・船舶に関する合意の不在
- REDD(森林減少・劣化からの排出量削減)についての大枠の合意
- 新しいメカニズムを検討するプロセス
 - “ダブル・カウント” 問題に関連する文言は入っている
 - 「非市場型の」メカニズム:Fガス削減の仕組みもこの中に入る？



カンクン合意の中の関連部分—AWG KP

- ギャップの認識
 - IPCC AR4における25～40%との関連の中で
- 余剰AAUの扱いについての4つのオプション
 - そのまま認める、制限する、売買を認めない、認めない
- CDM・JI等のメカニズムは改善・改悪両方の可能性
- LULUCF(森林吸収源)の算定の仕方
 - 「森林管理」については、「参照レベル」方式が濃厚に

今回の成果の評価ーギガトン・ギャップの観点から

• ルール

- 既存の目標のアンカーリングには「半分」成功
- 削減の水準を引き上げる文言は弱い
- 削減の確実性を確保するための
MRVの仕組み作りはまずまずの内容でスタート
- 抜け穴になりそうなルールはまだ残る(余剰AAU、吸収源、etc)

• プロセス

- 目標引き上げやその他の手段で
ギャップを埋めるプロセスは明確化できず
-



今後必要なこと

- 各国の目標行動の水準の引き上げ(もしくは維持)努力
 - 数字そのもの / MRV
 - 目標の定義、メカニズムや吸収源に関わるルールの厳格化
- 各国削減の数字以外の部分
 - 国際船舶・航空の組み込み / REDDルールの厳格な設定
 - Fガス等に関する国際的な取組み / ダブル・カウントの防止
- 長期の取組みを促す仕組みの整備
 - 低炭素発展戦略・計画



参考資料:ご関心のある方向け(全て英語)

- UNEP (2010) *The Emissions Gap Report*. UNEP.
<http://www.unep.org/publications/ebooks/emissionsgapreport/>
- Climate Action Tracker (2010) “Cancun climate talks - keeping options open to close the gap”
<http://www.climateactiontracker.org/>
- Climate Interactive
<http://climateinteractive.org/>
- WWF (2010) *Plugging the Gap*
http://wwf.panda.org/wwf_news/?195454/



ご静聴ありがとうございました

2011年3月26日20:30から [Earth Hour](#) というイベントを開催します。詳しくは1月下旬にWWFジャパンウェブサイトで！

- www.wwf.or.jp
- <http://goo.gl/LH3gR> (Earth Hour のYouTube動画)

